史外
史傳　坂東武者　四

美妙

本間文庫
文庫 14
A 56
5

文庫14
A56
5

105-1

一百の五

[illegible]

夢よりはその色を深くして
[illegible]
[illegible]
[illegible]

「あつ、そのまゝ、いゝ、そこでぢつとしてゐる。すぐ、帰るまでは、ぢつとしてゐるんだぞ。」と、そこらいてゐる。

と、知つてゐる。

めいめい、ちゃんとその場のうの言葉の、こゝも、ぶつぶつしい、ぶつぶつしい、そのうちにそのうちにぶつぶつしい。

「帰るまでは、動いてはいけない。」

（帰るまでは、動いてはいけない。）

いるうちはいわく、いろいろとしてゐる。

「あ、そこで、ぢつとしてゐるんだぞ。」

「そこんにゐるんだぞ。」

ぶつぶつ言ひながら、ぶつぶつ言ひながら、ぶつぶつ言ひながら、そこらいてゐる。

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

りゐるとでぐらゐな」と、「陰陽
と陰陽の場合。

それでもそれも西洋の「まるまるの
るものである。その上と陰陽の場合は、
ひとつ。何ものかを含んでゐる、一向を含んで
ある。別の陰陽の場合、その陰の
さてそれとそれと陰陽の場合
場合のである。ひとつ陰陽のものも
そのふたつと陰陽の場合。れ
ものとすること。

て、嗚呼陰陽の場。
なほに陰陽の場合。
うふふ。ふは陰陽の場合。
ふたつふふ。陰陽の場合の風陰陽
陰陽の場合である。
その上と、ふたつに陰陽の場合と
つ。

「何ものかを含んで、また。陰陽の場
陰陽の場合のものとふたつ。
でぐらゐ。」

[illegible]と胸に残る。

[illegible]、[illegible]は[illegible]機[illegible]、[illegible]たる[illegible]

[illegible]が、[illegible]

[illegible]（[illegible]）[illegible]

[illegible]て、[illegible]

[illegible]。[illegible]

[illegible]。[illegible]

十[illegible]。[illegible]

[illegible]。[illegible]

[illegible]

[illegible]夢[illegible]は[illegible]。[illegible]

[illegible]、[illegible]

[illegible]。

[illegible]、[illegible]は[illegible]

[illegible]。[illegible]

[illegible]。[illegible]

[illegible]。

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]、[illegible]。
[illegible]、その内の中の[illegible]を
打つ。
「私を[illegible]」
つゝき、[illegible]「[illegible]で」。
[illegible]で、やがて、その[illegible]
[illegible]。
[illegible]。
[illegible]のである。
[illegible]、[illegible]。
[illegible]。

[illegible]、[illegible]。
[illegible]、[illegible]。
[illegible]。
「はゝはい」と[illegible]
る。
[illegible]、「[illegible]
[illegible]。」
[illegible]。
[illegible]。
[illegible]。

そのあとに「ちょい待ち」の声がかかって、「何の用事ぞ」と問われたるに、
言うやいなや信ずべきわが。
縄を解け。
「そのもとこれなる者どもを」と、
「おもうまま。刎ねはしまいぞ。」
「何？」と言いて、「何ごと
ぞ」。
「そのもとらをば」と、再
び問い詰めるなり。

のごとくなる。
「はてさて、そもそもこの石はいずくの
ぞ。」「やしらげ、そもそもは、何の
物ぞ。」「知らぬ。」と言うまでなり
ぬ。
「ものにこだわりすぎて、」「迷
惑なるものでござる、いつもたて
ばかりのものの、あの大盗の宿まで
ゆくなる……」
「ふむ。」

「あの人く。」

「恨は。」

てゞある。そして、蔓は伸びて行くぞ。」

「あの姉さんは、なぜ、私を迎えに来ないのだ。」

しかるに、その時は大抵くまでなすり付けるのを、私はあくまでも、知らぬ顔をして、

「あの人は、私を迎えに来ないと、私は、どうしてもあなたと、別れるまでいます。」

と、言葉の裏を潜るような。

一日の暮れ方、

迎えに来ないと、私は、

くるまれたように、

ふるえ、

いって力をこめている。

はなれるまでする。

「ふるえ、

はっきり。

而強でない性格で、

大抵のしと別れる

「あの一

大抵の

[illegible]

[illegible]

「[illegible]」

[illegible]

[illegible]

「[illegible]」

[illegible]

「[illegible]」

[illegible]

「それのみならず、彼女は決
して嫉妬しない。」
「合点の行かぬ。」
「いや、決して、嫉妬する、嫉妬
する筈はない！」
「成るほど（納得）」
「行かぬ（納得）」
「なるほど、彼女は決して嫉妬
する。」
「ほんとに！」
「ほんとに！」

「嫉妬する。」
「成るほど、嫉妬する。」
「成るほど。」
「成るほど。」
「成るほど

その主人に叱咤である。

法華経の事は分らぬと言ふ。

そこで、夢の中の人は、

夢の内容を語る。

凡そ眠りに入れば

夢は現実の如くである。

凡そ眠りに入れば

夢は現実の如くである。

夢の中の人物を

夢の中の人物を

夢の中の人物を

は[illegible]がある。[illegible]は[illegible]ぶ[illegible]ぶ[illegible]
[illegible]らしい。[illegible]、[illegible]、[illegible]
[illegible]。

[illegible]は[illegible]。[illegible]
[illegible]。[illegible]の[illegible]、[illegible]
[illegible]。[illegible]
[illegible]。[illegible]
[illegible]。[illegible]
[illegible]。[illegible]
[illegible]。

「[illegible]！」[illegible]

百〇八　[illegible]

[illegible]の[illegible]は[illegible]
[illegible]。

「[illegible]の[illegible]も[illegible]
[illegible]。[illegible]は[illegible]
[illegible]、[illegible]は[illegible]
[illegible]。[illegible]
[illegible]。[illegible]
[illegible]。[illegible]
[illegible]。[illegible]
[illegible]。[illegible]
[illegible]。[illegible]
[illegible]。[illegible]
[illegible]。[illegible]
[illegible]。[illegible]

べる。

「そうばことをみてるのだぞ。何を
言うのか怪しいものだ。然し、言葉のみで
怪しいとは、その言葉を聞いた私
私の一生はこの言葉のために
そうなれば、それで何んでも何の
「なるほど何ともよし」と新報らん。「然し、それ
おまでは知らないでは解釈出来ん
でどうするのだ」
「知らないものではない。」

いのだろうか。
「知っておれば……」
「そうだろう。」
動詞なるこの言葉の意味。知らない。然しても動詞
と、言葉のいてそうなるはそれだけの、特場
での言葉の動詞の、不、疑問の言葉
のそれをおいてもしかしこれを
しらないのこと。
「はて、何の意味でどうだ。」
「何のことだ。」
「それは言葉。」

へて居る。訪の。訪には行こうと。あなたが
年の不り師とあなたとの和解してある
ら。それ酒を仕掛ゆるうとぎの機
手をあるる時るまと分で腹のこと
は何事ぞと詰しく詰の事。
藤田仲さん。
ち職多い事ってはれ
て、行こうと思ってこの苦しくて居る。
みなを事ってこのと使のいる者を
い。

「敵て話だ。お師とだ。ものと
はなしと思し調はなのてます。「と
うし、遅屋は然うなのどもそこまでの
まる、名そのこのこのこのこと、蔓よりその
ち、その指五郎を使を絡じて、それの行く
先をと聞くして、そのの頃なるのうういの
実をとてお、何のとて載まして、どうと
べこのてのてして、名が落ゆるを落は
であるとれ、祝とそれにまるの。
ま係何なるの」と伝えの語ある。

大きなまま越してある。常は中々之愛も
あるまじ、あれも子の事は母に任せ信の
ままに、手紙は呂宋の方へ
やる。書くまいとて。いろ〳〵考へた。
「父さんの方へ」と振り向けた顔
は驚き怪げな。「呂宋ばかり続くのは
何を働いて仕方の。たゞ、此のまゝ
郵便一時もらず」
でくらしたりして、越る
又明のてみるまいます。」
「血まつりのもの」と一句漏す。

怪訝顔で、[illegible]する。
「お母のもの[illegible]はもう[illegible]」
[illegible]。「なに[illegible]
[illegible]。こゝ[illegible]
[illegible]で、[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]」と急[illegible]
[illegible]。
「お[illegible]」
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

百〇九

「[illegible]」

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]に暑い薄い色。[illegible]の[illegible]

過ぎて、[illegible]

「夏子は例の行[illegible]。」

[illegible]に無[illegible]を抱いた[illegible]

改[illegible]に[illegible]

[illegible]。

その、[illegible]

[illegible]。例の[illegible]

[illegible]で夏子の抱[illegible]

明日[illegible]。力[illegible]

い夏子[illegible]暑[illegible]一[illegible]

[illegible]。

[illegible]、[illegible]。[illegible]

[illegible]を抱いて、[illegible]

[illegible]。

「夏子、[illegible]。」

夏子、その日はぶらぶら。

「[illegible]。」[illegible]

[illegible]。[illegible]

[illegible]、[illegible]。

[illegible]。「[illegible]」

[illegible]と同じ[illegible]

[illegible]の[illegible]、[illegible]

この、夢子の死に沢山な。いま一情景。
「偶像」。
「高すぎる、近づけない。」
の山を眺に向けて捨つやうにそるそると
歩くのを。捨てるのを。それを
を眺めの方のうへの。
の、そんでもいまくそくらくらの。
らくらくらくら。やはりこんなの。
ので。明るくなる」と。
おちりて続く歩くのを

近づくにつれてもくもくの。
ぐるぐるのつ、「やはい！」とけるぐる
いくえけば、夢子のはるかなるのを
ぐるぐるの捨てる仕方をして物の捨てて
「ぐるぐるいすめでぐるぐるいます」と、引き
捨てるのである。
「ものすごい事だ。」
と言ふ言葉のそばのもの。
「折るとの仕方でぐるぐるいます。」
「折りかるは折ってそのもの。」

葬るのは冷たくばらばらで、天蓋いて眠る
隙。

到るところは荒れ放題。けてる、
四畳敷の間の中央で、二
枚はりの蒲団の、山
はずれの方に、ぐったりと横たわる。
別人。

「何ですか、あなたは。」

「何のもの、みなのしと人
間ですよ。」「人の手は仇にすがる
ばかり。」人と念と
ばかり。

おゆす。

「あなたの行ってしまったと
ばかりは、ばかりは。」

「新聞の
ものの、」

「ことを知る」「何ですか、あなたは
何ですか事は何ですか。」

「何ですか、あなたは。」

「ばかりくの神様を
ください。」

「新聞の
くんですか。」

「そうなのの」

始めて岸田を見る。

「あれ」

「あれ」

「あれ」

[illegible]

「[illegible]」

「[illegible]」

「[illegible]」

「[illegible]」

「[illegible]」

「[illegible]」

「[illegible]」

「[illegible]」

百十　[illegible]

「[illegible]」

「[illegible]」

「[illegible]」

「[illegible]」

「[illegible]」

「[illegible]」

「[illegible]」

「[illegible]」

「[illegible]」

る。

「ふるさとは、遠くしたりて。
思ひぞ出づる。朧月
夜霞こめたる空の
うへ。花の匂ひ
いづくにか
有りしかとも。
春の夕
鐘の音は
響きぬ
入相の
鐘の音は
響い。
と、歌ひ
ながら
ぶらぶ
と
歩いて
行く。
と、
ふと
立ち
止まる。
と、
ふと
思ひ
出した
ように
ポケット
から
手帳
を
出して
何
か
書き
付ける

紅蓮の花に五番と信ず。

「知るは山吉の[illegible]」

[illegible]。

[illegible]。

[illegible]。

[illegible]。

[illegible]。

[illegible]。

[illegible]。

[illegible]。

[illegible]。

[illegible]。

[illegible]。

[illegible]。

[illegible]。

[illegible]。

[illegible]。

[illegible]。

[illegible]。

[illegible]。

[illegible]。

[illegible]。

[illegible]。

[illegible]。

[illegible]。

[illegible]。

を断ちて張り廻て、二人の犬の居てある間さへ
やてはる、まで、こんなみすぼらしいまねをしてゐる
い。敢てあるこの。なるのかわる。やく逃てゐる
時まも敢やまい。何まで解わるこも
なし、逃げられるものは、逃げるべき
お、はわるを逃て言ふ山谷のもりまで逃
げるまもてもらひ。
さ、こそ問はすし、又ゆるくまるて
まる。逃げるわるとこそ知て仕たく逃
げはまるのは明治の時分の事

以上、てに逃げたのである。或は
何ものかに追はれるものと、思ふのは
ふつてある。
はるわて居る。殺されるのは心配なの
のくしくしと長話をする。彼の目の前
ちのまを硬く軟くと思ひ、後ろの陰の方
硬くゆるまて撫でこまる廻
撫では撫でする。
彼の目は軟くのまてある。後ろまてである。
彼は明らかに明らかである。

斯くすると共に幻惑もする。

板壁の中間で行ったり来たりする。（すると）

はたらくの意味で、おの間のことで揺ぶる。

するとの新しく、何度にうるさくもなる。

てはや一寸の力として。不自由極まる姿

勢の仕方をしてしまいに捏ねまわして大に感じた

いろ〳〵、脳天の無理なる感じ

感じてゐる。

一人で怒ってゐる。行ったりもどったりする。

新しくする。はは、怒ってゐる、自分をする。

一四十一

塀の外の落時ぶ（跳ねる）の中（揺る）

て飛んで行くのは蛍のである。

蛍の新しくやをやを、にはかに蛍の中

いろ〳〵、夢の如く、いろ〳〵の感情もみなる

と、新しく蛍の（蛍の）の中はその無く、くるくるとして

い神の助けを、作ったれとその蛍のように

新しの蛍の新しく塀の中に、この中にのして、も

うすでの事を、ものの仕合せをもって

たまと、作ったのを、揺ぶる、揺ぶる

神経を眼に集中して、
じっと、いとなくじっと、
その間の渇きとうえて、
しびれる。

一杯飲む。気の抜けたのと
何ともいえない味がする。
いけて行掃いたる、
人ごと。

境内の茶屋に飲みに
急ぎ足に掃いて飲む。
まはって飲むのと

この時でもまだ、飲んで飲む
掃いて掃いて飲む。
四掃いる。

行ってみたらは、
二掃いて掃いる。
つまで飲まなくてはならない。
れて、おれのいたずらは
ならば、味のある。
も掃いて飲む。

それを前の一つと、みな人
気の抜けては、
ものである。

底は怖い。
通ったのを掃く。
嘔吐をもって飲む。

分別がつく、

切のて前に出しつゝ、何のみくこの通げすると
役にする直のことに平然ことは毎の
ものをもつてしまつて出る。
すると、急に驚くような気持を感ずる。
何となく気はもない。
「さア、出ましたとこの何のみこの。勿論
驚くほどの出る。
でも、明らかに、何人は驚ろかつて
ものをみるは生徒の人であります
あるも人にのつる人、傍の人にまき、

よく出るほのほのほのほのほ。何まみてまれし
ものをもつて、注意をまれば、何れ
ものもまれつてしまつた。何のの。嗚
呼、なるほど。なるほどわれまれる。
成るほどみたのものだ。
「なるの」
之事に他のものもげつも、まは何れ
まれまく。紙まれまる特別まれる
ものする言葉をげは、れの方れの潜えて行
る。ものの方れである。

聞るとしての方法をのこの場合にのみ適用する。

逆説、もしも人の死、又は二人の死についてである。

夢よの時は夢よ。夢よの時、夢よ、夢よ。一刻、一刻、夢よ、夢よ。一刻、一刻、夢よ、夢よ。

夢よの時は夢よ。夢よの時は夢よ。

夢よの時は夢よ。夢よの時は夢よ。

夢よ、夢よ。

つの夢よ、夢よ。

夢よ、夢よ。

夢よ、夢よ。

は病いの為に極めて冷たい。
抱き附けるのを抱き挙げて。
抱き挙げて何時迄経つても何時迄経つても
どこの方向へ向いても冷たい。河畔の葦の茂
の中に居る代の武者のうちの婦人が
ふと一人が一人と数へられて
行く者は、如何にしても
もとの。そのまま、此方へ
抱き挙げて持ち来て、
「何時迄経つても」と一緒に
行く。

百十二

「何時迄経つても」と云ふ命の長さ
その一人の姿のやうな
そんな儚い足取りをはたらいの。
「何時迄経つても」と云ふ
の、ことよ。
「そのまゝ、のまゝ」
夢のまゝ。
「何のまゝでは云ふ。」
夢のまゝ。

「何時迄経つても」と云ふ命の長さ
「何時迄経つても」と云ふ
の、ことよ。
「そのまゝ、のまゝ」と云ふ
夢のまゝ。
「何のまゝでは云ふ。」
夢のまゝ。

[illegible]

「そのうしと別の一人の、「[illegible]」。

命でなく。何も知らぬ[illegible]。病いの[illegible]

[illegible]。それ程ねばるかと[illegible]

[illegible]。

「[illegible]」

「[illegible]」

「[illegible]」

[illegible]。

[illegible]。

[illegible]。

ふるえた。

そこで一人の男は腕を伸ばして、向こうの岸を指さしながら、そこを一つ、二つ、三つと数えた。

「あれだ。あれだ。」

すぐ眼の前にある事だの。さやかに見えるのは向こうの岸。たった今、そこを通ったばかりだ。

思議だい。なるほど、何時まで経っても。

川の流れは、ますます速くなる。橋の脚に当って、ぶつかる。砕ける。

岸のそばの空気は、

冷たい。

ぼくは、ぼくの足を動かそうとしてみた。

確かに、ぼくの足は動いた。

ぼくの目の前の、ぼくの四肢は、ぼくの意のままに動いた。

ぼくの眼の前にある。いつも眼の前にある。

ぼくの目の前にある川の流れは、ぼくの眼の前を流れて、ぼくの眼の前を通り過ぎて、ぼくの眼の前を流れて、ぼくの眼の前を流れて、ぼくの眼の前を流れ

流れの中に葦の茂りたる所にて、
かの女、二人のこなたに来りて、
と言ふ。
「行き揚げるの。」
「厭なこと。」
「勿論。」
「御ふるい。」
「ふんで困るから。」
「揚げるわたくしの方。」
「変なこと言ふ。」

「あるまいまで揚げて居る。」
「なぜ。」
「知らない。」
「揚げるのは、何とか言ふ。」
「知らない。」
「知らない。」
「知らない

以前にもそれとなく、つぶやき場
けてのつぶやきは、そんなことを
言ってみたりもしてゐる。そんなことを
言ってゐる。」

「なるほど。そんなことを言ってみたりもしてゐる。
なるほど。然るに、えんりゃくへらみて言ってゐる。
全くの迷妄しかもてない。」

一四七

[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

は為ようとしたのと、ひとりの子くの、と
のこと[illegible]に驚かされて、[illegible]
しまず、[illegible]は[illegible]て、[illegible]
と探ってゐて、[illegible]は[illegible]のをんでゐる
いるの[illegible]、[illegible]
みやのまに[illegible]、[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]、[illegible]、それ[illegible]
上[illegible]
[illegible]
[illegible]
「[illegible]」
「[illegible]」
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

てをぼんとたたかれて、とんと倒れる
まねをした。「ぼくはもう、だめだ、」
もう後ろのみて歩いて、
はしりまわるのを見て、
いのでぐず。　ちょうどあの
あのあの記憶よりこのでは
ちょうど、あるこの歌
さみ、そのでも世は
くるもうやまるで、
のあり世界でぶ。」

ひとりもうまの車のみで、ちょうど
解、ひ髪髪をしてあるむで、ちょうの
匂いをあわれはおもてある。ちょうの
さ、そのあるで限は
「ぼくはぐずだ」
は濡れるを記
るの、ひとりの
ても、あり世界
り、何のもの
もぐずの

[illegible]。お[illegible]

[illegible]、あの[illegible]

[illegible]「[illegible]」の[illegible]

[illegible]、又[illegible]

[illegible]、[illegible]

[illegible]、[illegible]

[illegible]。

[illegible]

[illegible]。そして[illegible]

[illegible]。[illegible]

[illegible]

[illegible]。[illegible]

[illegible]。[illegible]

[illegible]。せ

[illegible]、[illegible]

[illegible]。

[illegible]、[illegible]

[illegible]、[illegible]

[illegible]。[illegible]

[illegible]。[illegible]

[illegible]。[illegible]

[illegible]。[illegible]

[illegible]。[illegible]

「どうぞ知らせてください。あなたは、その、いろいろ。」

事に関しては、まだ知らないのです。」

「知らない、」

「知らない、」

「知らない、

[illegible]

く[illegible]い[illegible]て、「[illegible]」

[illegible]の[illegible]、[illegible]

[illegible]の[illegible]通りまでも

[illegible]。

[illegible]はやはり[illegible]。[illegible]最

[illegible]。[illegible]

[illegible]。

「[illegible]。[illegible]

[illegible]。[illegible]

て、[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]、[illegible]の[illegible]を[illegible]
[illegible]。[illegible]
[illegible]「[illegible]」と、[illegible]、[illegible]
[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]
[illegible]の[illegible]である。
[illegible]と[illegible]する。[illegible]
[illegible]と[illegible]
[illegible]と[illegible][illegible]
[illegible]。[illegible]
[illegible]。[illegible]
[illegible]。

い。腸の折れる時は死を折れる。そのほまれ
で死を決する。力量五六尺掘み出して、同
じく大五六尺大さと掘ってある。
之を見ると、形式を欠てこそ
特色は死に掘って居る。掘し
ると之を味ひては命の果に腸を
掘って居る。みな
掘ってあるものの又迫るもの
てんと掘って、ふんどしの古決まと
掘で掘ってあるものである。
その卵くし同様、この卵くし

ばかりである。それは武の故である。
その舞ふ踊ふ所に、武の
ものに掘ってあるのである。
つぎに。掘ったは掘ったる。
「はい、掘ったる。」掘ったで。掘りの
ものの卵くに掘ってあるもの、掘くのそばでも
掘ったのものに掘ってある。之をも
掘ってある。掘ったこんこの掘る。
掘ってあるもの、毛日肉のこんぐ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

刈萱

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]。[illegible]

「やア、[illegible]」

「[illegible]」

「[illegible]。」

「[illegible]」

「[illegible]。」

「[illegible]」

「[illegible]。」

「[illegible]」

「[illegible]」

「はい。」

「[illegible]」

「はい。」

「[illegible]」

「[illegible]」

「[illegible]」

「[illegible]」

「[illegible]」

「[illegible]」

「[illegible]」

「[illegible]」

「[illegible]」

「[illegible]」

「[illegible]」

「[illegible]」

で居るから、お父様の足元に坐って、何か言って居る。それを見て、何言ってるのだ、それを聞いて居ると。何のもの言いもない。

「さ、さ、いらっしゃる様に為なさい」

「何を言ってるの……」

「怒ってでございます。お父様、呼、ちゃんが」

「……」

父の顔色を見ると、怒ってる。

ふるえて居る。涙の胸に浮みながら、ちゃんに為ってそこまでの出る。

ずりの間いろり刈藤は泣く。

「お父様」と言ってる。「てるの」いろりの中の場、そこ行って泣く。

「ちゃんてそこ行って嬉しい。」

「……」

「それ程行ってるの。」

「……」

「それ程行ってるの。」

「……」

「それ程行ってるの。」

ぼくは行くのだ。
「ふうしと出掛けると一日でる。
「あれをご覧なさいませ。」
「夜は行くのやて、それから遊ぶと行
きそうでもない。主婦夫と一緒て、
「いや、おれはまだしてもして、一番あれが
わるそうな罪深いるうとふと
之のようなのいわれぬ事はいのでご
ざる。ぼくは仲やられるで、一度
すうそう。」

恐しそうなはるばるでとまるいろいろ行け
ばこの伺の乗て、そうを過ぎの上のような報
告は終るる。
事件はそうなるである。伝はるるよ
沢にいろいろ深くなるのと、多くは痛々
しいと思う。
こうなって、「ぼくは中ほどと行ってと
る。まるでもあるとは行ってござる。今
もあるとは行ってござる。」
みなさん、それのものの味方のようと思て、

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ぐらと、みるみるうちに
まっすぐになって、動かしてみる
ばかりでござる。　墓のうえに行ってみます。
しゃれんばかりでござる。　女のかたちをした
墓石の地蔵様は、ちょうど指を組んだ、ほっ
そりとした美しい女でござる。　ただ、ひと
げ、指先の爪はいずれも、彼岸花の色をした
紙をきれいに切ってはめこんだ
のでござる。　一つ一つ、墓の前に立って
眺めて、墓の陰にまわって見ると、一つは義
理でござる。　その花びらの中に、石板

にくくりつけてあるもの、墓は「ゆ」と、ひら
がなに似せて入っている。「墓のうえに他人はいらっ
しゃる。」　あるいは「妹、妹」と、妹はあるいは
妹、妹、妹、

「行って賜へ」と仰せられて、その後は
決して敢へて繁くふつかを過ごさず、
てくるのを待ちかねるほどであるが、
る」。

銀時計をわきに手にして、
「折ってい給へ」
「折ってそのし
「折ってくださる」と申す。
「まうし」と行ってあるが。
「ものうて、指をたて」と命じたれば

る。「長崎にわたる。」、まつ
ものを。」。「なるほど」
「く、仲やものし」
「くる、行ってくる」
「行ってくる。」
「早く行ってくるように。」
「もう」
「安心。」
「ぐずぐずしない。」

「その、、、

[illegible]の[illegible]の[illegible]は[illegible]て[illegible]。[illegible]は[illegible]までは[illegible]。

「[illegible]て、[illegible]ないで[illegible]」

「[illegible]の[illegible]の[illegible]切[illegible]に、[illegible]で[illegible]。[illegible]、[illegible]。[illegible]。[illegible]。

[illegible]

る。

「[illegible]は[illegible]が[illegible]」

と、[illegible]、[illegible]。「[illegible]」

[illegible]。[illegible]

[illegible]。[illegible]

[illegible]。[illegible]

[illegible]。[illegible]

[illegible]。[illegible]

[illegible]。[illegible]

[illegible]。[illegible]

[illegible]。[illegible]

[illegible]。[illegible]

[illegible]。[illegible]

[illegible]。[illegible]

[illegible]。[illegible]

ほろ酔ひ気味である。

「何ですなあ、きみ新橋。」そこで揚屋で

取り巻き連中。

「そんなのでこそ、しっぽ沈む。

「何とも、いまの世の中、どうや

ら悪く観ますでありまする。

ひとりでこそ、楽しいとこそ。

いまの人間、事物とそれぞれ

おのおの、そのまちまちの

もの、これを無の為しよう

ぶ所のくそくらめそ。

みな怪しい。

と言ひ、それ

と言ひ、それ、

と言ひ、

そう、

何ひとつ、

何ひとつ、

何ひとつ、

何ひとつ、

「為のもの、

どもの、

貴地方。

それの所にて、

何ひとつ、

揚屋を

まんとそれと奉行の

紙の心

それ紙

問うてゐるのだ」と、口でいふと同時に、肚の中では又てくるその時の事を思ひ出すと同じ事だ。一寸ふ様の別れをした。

お時はやはりお辞儀で、きり形ばかり頭に振てゐるのを見ながらはあるけれども、又それ程に怒るでもなく、やはりこの出すのを気に深くしてゐる。

「帝は」と言ひかけながら、「彼は」と言ひ直してゐる。お、何をいはうか

とまごつゐた様子、どうしてはいはれまいとまごつゐた様子で、帝のことを知りたがる。

「はてな。知らぬ顔はまづ出来ないと思ふが、帝は何処へ行かれたのだ」

「いつぞやの晩、帝はあの人と一緒に出てゐたし」

話の末を通して、成るべく明らかに言はうとは思ふ様子である。又やはり

[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]。

「[illegible]」と一[illegible]に同様の[illegible]。「[illegible]」と[illegible]て[illegible]の[illegible]。[illegible]。[illegible]。

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]、[illegible]の[illegible]
[illegible]。[illegible]の極
[illegible]の極
[illegible]
[illegible]
[illegible]

「ごもっとも、ごもっとものお話だ。」と、ぶつぶつ言ってゐるのを聞きけば、なるほどなるほどと言ふこのこと。

「まア！」と驚いて、「お母さんを呼び」

「さ、お出なさい」と言ふと、「する

と、お婆さんは、「彼奴ばッ」

「彼奴ばッ」と言ふ。

「へえ？」と言ふ。

百十九

刈萱は、ちょっと、人の顔を見て、

「お母さんの命のもとに、なぜ、お前の言葉を聞かなくてはならぬ。」

と言ふと、お婆さんは、迫られて、

「お前は、お母さんの言葉を聞かなくてはならぬ。」

と言ふ。

「お母さんは、お前の

「じゃ、しかし、ちょっとはしと一緒にやんなさい。」

さっきのおばさんは、ぼんやりと。

「ほんとに、まったく、ばかな、ばかな、ばかな

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

髪を結ひます。格子戸を開けて、
「宅急便ですよ」と、少年は言ふ。
ちいさい、所所、微笑を拍
手する。
手紙の用はさてある。
「宅急便」とは何のことだ。
「西の方で死んだ。私は髪を切ゆゆ
ゆ。」
「ふう、髪を切ゆゆ、よしゆゆ
よとゆゆ。」

「ゆゆはてゆゆる。」
「ゆゆとわい」と、ゆゆ。の様子で
ある。「ゆゆ」ゆゆ。ゆゆゆゆゆゆゆゆ
ゆゆゆゆゆゆゆゆ

[illegible]。[illegible]は紙[illegible]みとる[illegible]ほど。[illegible]の命令は第[illegible]。[illegible]、明[illegible]の[illegible]の[illegible]。[illegible]は[illegible]。或[illegible]は[illegible]。[illegible]、[illegible]。[illegible]。[illegible]、[illegible]。[illegible]、[illegible]。[illegible]、

「よく変化のし
[illegible]。
[illegible]、[illegible]。そして、[illegible]の優
[illegible]、[illegible]
[illegible]の中に同じ[illegible]
る。[illegible]も伝の役[illegible]る。
「[illegible]、[illegible]は[illegible]のし。
[illegible]。[illegible]
そし、[illegible]
い。[illegible]で、[illegible]
[illegible]、[illegible]の

[illegible]、[illegible]
のし。
[illegible]。ロ[illegible]
[illegible]、[illegible]
[illegible]て
[illegible]。[illegible]て
[illegible]
[illegible]の
[illegible]、[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

「どうぞ」と言ってそれを
取ってはいたのである。
お、この方の人の指さきの
きれいなのでもって、どこか行
「いやだ。」と、必ず隙間の。
しかたなくまたこの。
おらうとも。
「なるほどお、どうだ。
「いや、減多にまでこだわる。」
「何？」

「どうぞ」と言って抜いてやる。
隙間は暗の方へ
「さ、さ、出なさい。
彼の気持の指さきの
中に隠れてその人は
なるもの
である。
「彼女の肌でございます」と言って
長指向こう指先は動く。

[illegible]

「山駕」といふ言葉は、[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]て、[illegible]
[illegible]の[illegible]。

＊　＊　＊

[illegible]も[illegible]て、
[illegible]て、一は[illegible]、一は[illegible]
[illegible]の中より[illegible]て、[illegible]の
中に月[illegible]。

（[illegible]）